

九 雜 件

1 小幡アグレマン問題解決關係

948 昭和6年6月3日 在中国重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）

王外交部長日中間の大使交換を提議について

南 京 6月3日後発
本 省 6月4日前着

第四九二號（極秘）

三日⁽¹⁾日外交部長ニ面會シタル際部長ヨリ民國政府ハ日本ニ對シ大使ヲ派遣シタキ意嚮ヲ有スル處日本政府ハ之ヲ受諾シ吳ルルヤ至急内意ヲ伺ヒタシト申出タルニ付本官ハ大使交換ノ件ニ付主義トシテ日本政府ニ異存ナキハ豫テ説明セル通ナルモ右ニ關スル實際問題ハ小幡大使問題以來懸案トナリ居リ曩ニ御希望ニ依リ幣原大臣ニ書面ヲ差出シ置キ今回本官歸朝ノ際ニモ談ハ此點ニモ觸レタルカ幣原外相ハ種々考慮ノ結果現在ノ如ク本官ヲシテ中日關係ノ處理ニ當ラシ

ハ何分ノ儀至急御回電アリタシ

949 昭和6年6月9日 幣原外務大臣より
在中國重光臨時代理公使宛（電報）

中国側の大使交換提案は時機尚早だが特派使節による日中關係の改善は歓迎について

本 省 6月9日後9時30分發

第一九三號（極秘、暗）

貴電第四九二号及第四九八号ニ関シ

今回ノ中国側申出ハ同國側ノ一方の大使派遣及兩國間大使交換ノ二個ノ場合ニ亘リ居ル処前者ニ付テハ中国力大使ヲ派遣スルニ拘ラス日本力之ヲ派遣セサルハ日本トシテ中国ニ禮ヲ尽ス所以ニ非ズシテ又國際慣例ニモ反スルヲ免レズ後者ニ付テハ理論ハ兎モ角我方トシテハ從來ノ行懸リモアリ豫メ他ノ關係國ニ知照スルヲ要スル次第ナル処目下ノ事態ハ列國間ニ本件話合ヲナス適當ノ機會ナルヤ甚タ疑ハシク若シ一旦開談ノ上列國ノ意向ヲ纏ムルコト不可能トナリタル場合ニハ不快ナル國際關係ヲ發生スヘキ虞レアリ孰レノ途今回ノ中国側申出ハ日本ニ取りテ差当り取計ニ窮セサ

ムルコトニ決意セラレ居ル旨漏ラサレタルニ過キスト説明シタルニ王部長ハ此問題ハ勿論相互ニ大使交換ヲ希望スル次第ナルカ已ムヲ得スンハ差當り中國側ノミヨリ大使ヲ派遣シ中國公使館ヲ昇格スルコトトシ

⁽²⁾又日本側ニ於テハ日本公使館ヲ大使館トシ將來適當ノ時期ニ大使派遣ノコトトセラレ更ニ又日本公使館ヲ大使館ニスルコトモ日本政府ノ適當ト認メラルル時期ニ行ハルル方法ヲ考フヘシ何レニスルモ至急日本政府ノ意嚮ヲ承知シタシト言ヘルニ付本官ハ問合セ見ルヘキ旨ヲ答ヘ置ケリ

右提議ノ動機ニ付テハ外交部長ハ現任者ヨリモ國民黨出身ノ適任者ヲ日本ニ派遣シ諸種ノ問題ノ取扱ニ便シタキ意嚮ナリト述ヘ居タルカ或ハ廣東時局等ノ關係モアリ蔣介石等ニ於テ更ニ自己ニ都合良キ人物（例ヘハ張群）ノ如キヲ派遣シタキ意嚮ニ出テタルニアラスヤトモ考ヘラル本件ニ付テハ對内對外ノ關係ニ鑑ミ各方面ヨリ慎重御考慮ノ要アルヘキコトト思考セラルル處外交部長ヨリ更メテノ申出ナレ

ルヲ得ズ尤モ中国側ノ意図カ此ノ際同國有力者ヲ公ノ資格ヲ与フルコトナシニ本邦ニ派遣シ本大臣乃至政府当局トノ間ニ忌憚ナキ意見交換ヲ行ハシメントスルニ在ルニ於テハ右ハ我方トシテ異存ナキハ勿論大イニ歓迎スル所ナリ就テハ叙上ノ趣旨ニヨリ可然先方ニ應酬セラレ度

950 昭和6年7月9日 在南京太田領事代理より
幣原外務大臣宛（電報）

汪公使に代え蔣作賓を駐日公使としたい旨重光公使に伝達方王外交部長より申出について

南 京 7月9日後発
本 省 7月10日前着

第四一八號（極秘）

本官發支宛電報

第三九八號

林出ヨリ

九日往電第三九七號王部長ニ會見ノ際同部長ハ從來重光代理公使ニ對シ大使交換ノコトヲ再三申出置キシカ現在ノ汪公使ヨリモ中央政府及黨部方面ニ關係深キ重要人物ヲ派ス

ル事兩國國交上極メテ肝要ニシテ大使交換ノ運ヒニ至ラサルニ於テハ特使ヲ派遣スル便法ナキニ非サルモ特別ノ理由ナクシテ平時ニ特使ヲ派遣スルハ宜シカラス故ニ將來大使ニ昇格セシムル積リニテ暫ク公使ノ名義ヲ以テ重要人物ヲ派遣シ汪公使ニ代ラシメ度ク就テハ目下歸國中ノ駐獨公使蔣作賓ヲ推薦スル積リナルカ日本政府ノ承認アリ次第實現セシメタキニ付右重光代理公使ニ傳達ノ上日本政府ニ於テ更ニ考量セラルル様取計ハレタシト語レリ

大臣へ轉電セリ

951 昭和6年7月14日

幣原外務大臣より
在中国重光臨時代理公使宛(電報)

蔣作賓公使任命申入れの機会を利用し小幡ア

グレマン問題の解決を図りたきにつき中国側

対応回電方訓令

本省 7月14日後0時25分発

第二三八號(極秘、暗)

貴電第六一九号ニ関シ

小幡大使「アグレマン」問題ヲ現状ノ儘ニ放任シナガラ我

952 昭和6年7月16日

在中国重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛(電報)

小幡公使不承認の事実なき旨声明のうえ蔣作賓公

使任命の推進希望との王外交部長の談話について

南京 7月16日後発

本省 7月17日前着

第六四四號(極秘)

貴電第二三八號ニ關シ

十五日外交部長ニ會見ノ終リニ部長ヨリ蔣作賓任命ニ付東京ヨリ回答アリシヤヲ問ヒタル機會ヲ利用シ本官ヨリ右ハ恐ラク日本政府ニ於テ好意的考慮ヲ加ヘ居ルヘキモ未タ回答ニ接セス自分ハ御質問ノ機會ニ部長限リ自分個人ノ感シヲ述ヘタシ實ハ御承知ノ小幡問題ハ日本上下(ニ)想像以上ノ惡感ヲ與ヘ居リ日本側ニ於テハ右ニ關シ民國側ノ執ラレタル態度ヲ首肯シ得ス今日迄懸案ト爲シ居ル建前ニシテ現ニ今日迄正式公使ヲモ任命シ得サル譯ナリ右ハ現政府トシテハ反對黨ノ攻撃ニモ直面シ何トカ解決シ國民的感情ヲモ恢復シ度キ希望ヲ有ス就テハ貴部長ニ於テ本使ニ對シ小幡公使拒絶ハ之ヲ撤回スル旨口頭ニテモ正式ニ申出テラ

方ヨリ蔣作賓ノ任命ニ對シ承認ヲ与フルニ於テハ本邦輿論ヲ刺戟シ兩國ノ關係ヲ益々悪化セシムル虞アリ最近中國側カ朝鮮事件ニ拘ラス排日運動ノ抑制ニ努メ居ル点及胡漢民カ中心勢力ヨリ離レ居ル点等ニ顧ミ此ノ機會ヲ利用シテ小幡問題ノ解決ヲ圖ルコト適當ナルヤニ思考ス就テハ王部長ニ對シ貴官限リノ思付トシテ此際中國側ヨリ我方ニ對シ「小幡問題ハ當時種々誤解アリテ意外ノ紛糾ヲ生シ兩國關係ノ為極メテ不幸ナル出来事ナル処斯クノ如キ問題ノ結果兩國間ニ長ク不快ナル印象ヲ残コスコトハ甚タ遺憾ナルニ付此際國民政府ニ於テハ小幡任命ニ對スル異議ヲ撤回シ以テ過去ノ経緯ヲ一掃スルコトトシタシ」トノ趣旨ヲ表明スル(尤モ小幡大使ハ既ニ独逸ニ赴任シ居リ中國側ノ右様表明アルモ事實上中國ニ赴任セシムルノ意向ナキニ付其ノ辺可然暗示セラレ度)一方日本側ハ中國政府ヨリ正式ニ蔣作賓任命ノ承認ヲ求メ来ル場合之ニ同意ヲ与フルコトトスル様日本政府ニ對シ自分ヨリ建言シ見シカト思考スル旨ヲ述ヘラレ先方ノ應酬振回電アリタシ

南京ニ轉電セリ

ル事トシテハ如何尤モ小幡大使ハ現ニ伯林ニ在ルハ御存シノ通ナリ斯クシテ自分カ蔣公使任命ニ付テ更ニ貢獻シ得ルニ於テハ兩國感情疏通ノ爲幸福トスル處ナル旨ヲ説キタリ

外交部長ハ事情ヲ諒解セリト見エ遂ニ元來小幡公使問題ハ自分ト上村領事トノ非公式ノ談話ニ止マリタル譯ナレハ自分ヨリ「自分カ小幡公使不承認ヲ政府ニ「レコメンド」セリトノ過去ニ於ケル新聞記事ハ全然事實ニ非サル」旨ヲ聲明シテ本件ヲ終熄シタク尙日本側ニ於テモ正式公使ヲ任命シ本件ヲ一掃セラルレハ更ニ結構ナリト申出タリ

本使ハ右貴案ハ幣原男ニ報告差支ナキヤヲ確メタルニ差支ナキ旨答ヘタリ

953 昭和6年7月16日

在中国重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛(電報)

排日の空氣濃厚の状況に鑑み王外交部長の小幡公使不承認の事実なき旨の声明をもって蔣作賓公使の承認方意見具申

南京 7月16日後発
本省 7月17日前着

第六四五號(極秘)

往電第六四四號ニ關シ

朝鮮事件以來排日ノ空氣ハ漸次濃厚トナリ中央ニ於ケル黨部及政府ニ於テモ或ハ國內ノ形勢ヲ見テ「制シ切レズ」トシテ所謂合法的排日(「ポイコット」)ヲ默認スルニ傾キ之ヲ將來ノ各種對日交渉ニ利用シ例ニ依リテ日本ノ出方如何ニ依リ將來ノ排日ハ定マルモノナリトノ態度ニ出テツツアリ此形勢ニ於テ蔣公使受諾ノ問題ヲ小幡公使拒絶撤回ノ問題ニ餘リニ強ク引掛クルニ於テハ外交部長ト雖政治會議等ニ於テ全然前議ヲ翻ヘサシムルコトヲ得サルヘク再ヒ小幡問題ニ關スル議論ヲ蒸返シ本件ニ付更ニ第二ノ小幡問題ヲ惹起スヘシ之ヲ將來ノ兩國關係惡化ノ傾向ト併セ考フルトキハ或ハ遂ニ双方ノ希望スル公使任命時期ハ永ク來ラサルヤモ知レサルノミナラス日常各般ノ交渉ニ事毎ニ「ヒツチ」ヲ生スヘシ彼此考ヘ併セ此際ハ外交部長ニ於テ幸ヒ我方希望ヲ大體容レタル提案ヲ爲シタル譯ナレハ之ヲ其ノ儘受容レ對内的ニモ「不承認ノ事實ナキ旨」ヲ説明シテ事件

ニ覺ヲ付ケケ賓ヲ承認セラルル方然ルヘク思考ス御詮議ノ結果御回電ヲ請フ

954 昭和6年7月18日 幣原外務大臣より
在中国重光臨時代理公使宛(電報)

小幡公使アグレマン拒否取消しと見なし得る
声明提示を王外交部長に再度申入れ方訓令

本省 7月18日後10時30分発

第二四五號(至急 極秘、暗)

貴電第六四四号ニ関シ

王部長トシテハ蔣作賓ノ「アグレマン」ニ重キヲ置クト同時ニ之カ拒否ニ依リ窮地ニ陥ルヘキコト想像ニ難カラサル処当方トシテハ彼ヲ窮追シテ事態ヲ更ニ荒ラケントスルノ意毛頭ナキモ同部長案ノ如キ聲明ニテハ單ニ部長自身ノ立場ヲ説明スルニ止マリ國民政府「アグレマン」拒否ノ事實ハ其ノ假殘ル譯ニテ内政的ニモ説明ノ仕様モナキ次第ナリ故ニ往電第二三八号ノ如ク此ノ際國民政府トシテ撤回若ハ取消等ノ聲明ヲ爲シタル形トスルコト至難トセハ詮メテ王部長ニ於テ「元來小幡問題ハ自分ト上村領事トノ非公式ノ

第六六六號(大至急 極秘)

二十一日王部長ニ面會シ更ニ小幡問題カ如何ニ日本上下ノ感情ニ影響シ居ルカヲ述ヘ本問題一掃ノ必要ヲ説キ種々打合せノ結果貴電第二四五號ノ括弧内ノ通王部長ニ於テ本官ニ聲明スルコトトナレルカ尙右ハ爲念出來得レハ文書ニ殘シ置クコト然ルヘシト思考シ談合ヲ遂ケ本官ヨリ二十一日附ヲ以テ小幡問題ニ關スル外交部長ノ聲明ニ對シ確認ヲ求ムルノ英文書翰ヲ送付シ置キタル處同日附ヲ以テ部長ヨリ右確認ノ書翰送付越セリ

往復文書郵送ス

956 昭和6年7月29日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛(電報)

蔣公使任命の承諾および重光公使昇格につき
王外交部長に通報について

南京 7月29日後発
本省 7月29日後着

955 昭和6年7月22日 在中国重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛(電報)

小幡公使アグレマン拒否取消し声明につき王
外交部長と合意確認の英文書簡交換について

南京 7月22日前発
本省 7月22日後着

第四一號

大臣發貴代理公使宛電報第二六一號ニ關シ

御打合ノ通廿九日日本官王部長ニ面會ノ上前記大臣來電ノ次第ヲ述ヘタル處王部長ハ蔣公使任命ニ對スル日本政府ノ好意的考慮ヲ感謝シタル後重光氏ニ對シ我々ノ有スル感情ハ既ニ貴下ニ於テモ御承知ノ通ニテ日本政府トシテ極メテ賢明ナル選任ナリト考ヘラル尤モ右ハ一應國民政府ニ報告ノ上出來得ル丈ケ速ニ正式ノ御答ヲ爲スコトトスヘシト答ヘタリ
尙其際大臣來電ノ通本件ノ内意決定ノ上ハ相互ニ「アグレマン」ヲ與フル書面ヲ交換スルコト及右文書交換迄本件ヲ絶對極秘トスルコトニ付テハヨク念ヲ押シ置ケリ右不取敢大臣ヘ轉電セリ

957 昭和6年8月4日

在中国重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛(電報)

蔣主席が重光公使昇格を歓迎するとの電命宋子文より通報について

南京 8月4日後発
本省 8月4日後着

第四六〇號(大至急 極秘)

在支公使宛往電第四二一號ニ關シ

四日江華本王部長ノ代理トシテ來訪重光代理公使ヲ公使ニ任命ノ件ハ中國側ニ何等問題アル譯ニハ非サルモ其後政府要人會合ノ機會ナカリシ爲決定遅延シ居タル次第ナルカ一兩日中ニハ正式ニ御返事致シ得ル筈ナリ然ルニ曩ニ貴官ヨリ王部長ニ對シ中國側ニ於テ重光公使ノ任命ニ同意ノ意嚮決定ノ上ハ同日附ニテ日本側ヨリハ蔣氏ニ對シ又中國側ヨリハ重光氏ニ對シ夫々「アグレマン」ヲ與フル書面ヲ送付交換シタキ旨御話アリタルカ右ノ如ク同日附トスル時ハ如何ニモ交換的條件ニテ兩國公使ヲ任命シタルカ如キ感ヲ與ヘ面白カラサルニ付蔣氏ニ對スル「アグレマン」ノ書面ハ貴官ヨリ王部長ニ内意ヲ傳ヘラレタル日附(七月廿九日)トシ(書面ハ重光代理公使ヨリ王部長宛ノ体裁トス)又重光氏ニ對スル「アグレマン」ノ書面ハ國民政府ニ於テ同意ノ決定ヲ爲シタル日ノ日附トシ外交部ヨリ日本公使館宛通知ノ形式トシタキ王部長ノ意嚮ナルニ付右ニテ差支ナキヤ

九 雜 件

第七一五號(極秘)

四日宋子文本官ニ會見ヲ求メ蔣主席ヨリノ電命ナリト前提シ日本政府力貴下ヲ公使ニ任命ノ御意嚮ハ漸ク唯今承知セリ貴下カ日支兩國ノ關係ノ爲ニ努力セラレタルハ何人モ敬服スル所ニシテ自分(蔣主席)ハ今回日本政府力貴官ヲ中華公使ニ任命セラルル事ヲ衷心歡迎ス更ニ貴下ハ自分ノ尊敬スル幣原外相ノ篤ク信任セラルル所ナルヲ豫テヨリ承知シ居リ一層喜ヒニ堪エス云々ト叮重ナル傳言ヲ傳ヘタルニ付本官ハ蔣主席ノ厚意ニ對スル謝意傳達方ヲ依頼シ置キタリ
南京ヘ轉電セリ

958 昭和6年8月4日

在南京上村領事より
幣原外務大臣宛(電報)

重光、蔣公使のアグレマンは各々同意ないし決定の日付としたい旨の王外交部長の意向について

至急日本政府ノ意嚮ヲ承知シタキ旨申出タリ
就テハ何分ノ儀折返シ御回電相成度シ
尙右愈決定ノ上モ之カ發表ノ時期ハ双方打合セノ上同時ニ行フコトニ話合ヒヲナシ置キタリ
支ヘ轉電セリ

959 昭和6年8月4日

在南京上村領事より
幣原外務大臣宛(電報)

國務會議が重光公使へのアグレマンを決定について

南京 8月4日後発
本省 8月4日後着

第四六一號(大至急 極秘)

往電第四六〇號ニ關シ

四日午後江華本ヨリ電話ニテ重光公使任命ニ關スル件ハ本日ノ國務會議ニテ日本側ノ申出通り「アグレマン」ヲ與フルコトニ決定セル旨内報シ越セリ
尙其ノ際江ハ右國務會議決議ノ次第ハ外間ニ洩レタル疑アリ目下調査中ナル旨内話セルニ依リ本官ハ其ノ粗漏ヲ責ム

上海 8月4日後発
本省 8月4日後着

ルト共ニ萬一漏洩セルコト明カトナリタル際ハ我方トシテ
モ直ニ發表スル必要アルニ付王部長ニ相談ノ上貴方ノ意向
至急通知アリタキ旨申聞ケ置キタリ

代理公使へ轉電セリ

2 中国沿海漁業問題

960 昭和6年1月13日

在上海村井総領事より
幣原外務大臣宛(電報)

密輸による脱税防止のため外洋貿易従事の船舶
を百屯以下に限定方財政部より命令について

第一〇號

上海 本省 1月13日前着 発

十二日ノ當地中國諸新聞ハ裁釐情況ニ關シ左ノ如ク報セリ
各省ニ於ケル釐金廢止ノ成績ハ頗ル良好ニシテ遅クモ一月
十五日迄ニハ殘務整理モ完了スル筈ナルカ中央ニ於テハ右
裁釐ニ代ヘ新稅ヲ徵收スルモ尙年額一千七百萬元以上(地
方政府へ補助スルコトアルヘキ額ヲ含マス)ノ減收トナル
ヘク又各省政府ヨリハ夫々不足額補給方申出テツツアルニ
付財政部ハ目下各省ノ營業稅收入等ヲ參酌シ補給額審議中
ナリ尙財政部ハ今後沿海各地ニ於テ密輸入ノ行ハルヘキヲ
虞リ脱税防止ノ爲曩ニ行政院ニ對シ二百五十噸以下ノ船舶
カ外洋貿易ニ従事スルコトノ禁止方提議セル處今般審議ノ

結果百噸以下ト修正シ各海關ニ命令セル趣ナリ

北平、奉天、天津、青島、濟南、漢口、南京、廣東、蘇州、
杭州、蕪湖へ轉電シ、支へ轉報セリ

961 昭和6年1月15日

在青島川越総領事より
幣原外務大臣宛(電報)

百屯未滿の外国発動機船の航海禁止が我が方
漁船に適用される場合の影響について

第九號

青島 本省 1月15日後着 発

上海總領事發閣下宛電報第一〇號末段ニ關シ
當地海關ハ本月七日海關監督ヨリ財政部ノ訓令ナリトテ一
〇〇噸未滿ノ外國輪船及電船ノ外國ト中國各埠間ノ航海ヲ
禁止スヘシトノ通牒ニ接シタル趣ヲ以テ去ル十四日本邦ニ
歸還セントスル發動機船ノ出港ヲ許可セサリシニ付早速當
方ヨリ交渉シタル處海關ニ於テハ本件ヲ當地限りニテ許否
ヲ決定シ得スト爲シ總稅務司ニ請訓セリ御承知ノ通當地水
産業ハ事實上殆ト邦人ノ獨占スル所ニシテ其ノ使用發動漁